震災から見える復興の道

0, 初めの挨拶

はじめましての方もそうでない方もこんにちは。中三Ｃになりました、高野です。

今回は復興状況について書かせていただくことになりました。よろしくお願いします。

1, 震災の状況

今まで震災の暗い部分として被災地の犠牲者、被災した家屋等は見てこられたと思いますので申し訳ございませんが省かせて頂きます。

今でも震災の状況は芳しくないニュースがたくさん聞こえてきます。たとえば原発の放射能に汚染されてしまったゴミの埋め立て、まだまだ続いている雇用問題と住居の確保などです。

確かに復興は少しずつしか進んでいません。しかし、その少しずつでも進行しているのは確かです。今回の文章ではその復興について書こうと思います。

2, 現在の復興の状況･いまだにある問題

まず、日常生活に関係することから書こうと思います。

仮設住宅の問題は比較的収まりました。しかし、この社会歴史研究同好会の合宿で実際に行ってみて分かったことがあります。まず、外部の人とかかわること―もちろん近隣の家に住んでいる人とも―がとても少ないです。震災で被災する前からずっと親しかったお隣さんはどこか違うところにいる、等というふうに元々親しかった人がどこかに行ってしまい、孤立するパターンというのは確かにあるのです。正直に言うと僕自身も人々から聞いたわけではなくあくまで見ている側の推測ですが、この現実は確かにあると思います。

そして、もう一つ。おそらく今現在の日本で被災者でなくても苦労をするかもしれない問題が被災地にも重くのしかかっています。それは、**雇用問題**です。

雇用問題は被災地のみならず現代日本全体にのしかかっています。特に沿岸部は深刻で、いまだに求職者数が増えているとのことです(復興庁調べ)。しかし、やはりそんな中でも就職している人はいるわけで、平成 23 年 4 月～24 年 6 月までで約 20 万人もの人が就職しています。

次に工業などの経済問題です。

まず、鉱工業です。鉱工業に関しては、一時は震災前の 3 分の 2 ほどに減少したもののこのスピードで震災前の水準に戻りました。しかし、宮城県だけはそうでなく、沿岸部の生産設備の被害が甚大なため復興が遅れている、という現状もあります。

農業や観光業も信頼が戻ってきたのかだいぶ復帰しました。元の水準とまではいきませんが、震災があったとは思えないほどのスピードで復興が進んでいます。

やはり、そんな中でも圧倒的に被害が大きかったのは水産業です。もとより三陸海岸の特徴を生かした漁業を収入の基本としていた住民も多く、多くの人が沿岸部に漁師小屋等の生活拠点を持っていたのです。

すると津波で家から船、網や道具類全てが持っていかれてしまったのです。

やはりニュースなどで書かれているように漁業･水産加工業の落ち込みはものすごく多く、現在もまだ復帰した人々は 6 割ほどです。
このような状況がまだ続いていますが、国のほうも様々な対策を立てて対応しているところです。
ここで、国の対策についてみてみましょう。
3, 国の復興関連制度
国が被災地に送っているものとしては、やはり補助金や支援物資が主です。
それに関連した法案と他の主な法案を見てみると
特別財政およびその助成に関する法律
復興財源の確保
といったようなものがやはり第一に出現します。
次に出現するのは
土木工事の特別措置法
選挙の機関等の特例法
などです。やはり行政機関と瓦礫撤去などのことを基本として考えているようです。
ライフラインの供給や政治機関の統制によって住民の不安を少しでも和らげようという意思がみて取れます。ここまでを見ると「国はちゃんと仕事をしているじゃないか!マスコミはなぜ叩くのだ!」思っている人が多いでしょう。
しかし、国にも少々の問題があるのです。その問題が少々で済む問題かどうかと聞かれたら非常にまずい問題ではありますが。国の補助金の行きわたり方などの問題です。一部の人にしか行き届いていないという実情があり…という話はこの文章の趣旨から外れそうなので割愛させていただきます。結局国の良い政策はあまり言えなかったのですが…
4, 最後の挨拶
この文章を纏めろと言われても厳しいようなどうしようもない文章でした…このような分かりにくい文章で申し訳ございませんでしたが、どなたかのためになったのならば幸いです。
それでは、最後に一言述べて終わりにしたいと思います。

―――復興のためには、何が必要か。

僕は復興のためには「すべての国民が協力をすること」が必要だと考えます。
もちろんこの国民とは国会議員や内閣総理大臣から普通に生活をしている僕ら学生など日本に住んでいる全ての人々のことです。
僕たちがやれることは確かに限られていますが、それでも少しはやることがあるはずです。この心がある限り、日本から復興の心が消えることはないと思います。
もうひとつ、「この震災を体験したものとして伝えていくこと」です。
この震災を経験した人の一人として後世まで体験した記録、感じた記憶などを伝えてあげることが復興の心を途絶えさせないために必要なことだと思います。

ありがとうございました